



2020年7月20日

森と海の自然科 活動記録 (Bグループ担当)

「御前浜・砲台跡およびマイクロプラスチックについて」

日時 2020年7月16日(木) 集合 阪神香櫨園駅改札口 10時30分
持ち物 弁当、水筒、タオルなど暑さ対策、マイクロプラスチック調査道具一式(荘村さん)
参加者 20名
行程 阪神香櫨園駅・西宮市立郷土資料館・御前浜公園(砲台跡、マイクロプラスチック調査)
・昼食、解散 (オプション; 白鷹緑水苑、宮水庭園)
行程距離 約6~8キロ(午後からのオプションプランを含めて)
★2グループに分かれ、15分の時間差で出発した

行程地図



内容 ①西宮市立郷土資料館見学
西宮地方の歴史と文化財を実物資料で展示。収蔵資料は約4万点
西宮の自然史、稲作の始まり・古墳文化(古墳出土品)、古代中世(石造物)、
近世(酒造り、名塩の紙づくり)など



阪神・香櫨園駅



宮市立郷土資料館



御前浜公園

②御前浜公園・砲台跡・・・西宮市立郷土資料館・学芸員の早雁さんから説明を受けた

- ・江戸時代末期の砲台跡。国の史跡に指定されている
- ・幕末の頃、国防に不安を感じていた江戸幕府が勝海舟の建議を取り入れ、文久3年（1863年）、大坂湾の海防のために和田岬砲台、舞子砲台、今津砲台と西宮砲台を建設。
- ・現在、浜辺に残っているのは、この西宮砲台のみ。当時の様子が偲ばれ貴重。
- ・建設に必要な御影石（花崗岩）は主に岡山県より切り出し、海路で運搬された。
- ・完成後、空砲を試し撃ちしたが砲煙が内部に充満してしまい、結局実用には向かず一度も使われないままに明治を迎えることとなった。
- ・建造当時は「御台場」と呼び、砲台の建物を「石堡塔」、周りの土堤を「外郭」と呼んだ。円筒形の砲台が目立つが、外郭も重要で全域が史跡指定対象となっている。
- ・内部は木造2階建、1階には暑さ対策の井戸もある。2階は側面に砲眼11個、大砲を2門で筒口を四方に向けるという装備となっていた。現在は内部へは安全のため入れない。

③マイクロプラスチックの説明

- ・漂着物調査 手法は確立されている。10m四方、8種類に分類など
- ・マイクロプラスチックとは、5mm以下、1次と2次あり
- ・プラスチックの種類 現状の生産量ほか
- ・懸念される問題点 漁獲量への影響、人間への影響（学術的に証明は未だ）
- ・調査方法（標準化は未だ） 海水中と砂の中での密度、採取方法、分析方法

④湾岸域の砂に含まれるマイクロプラスチックの調査

- ・公園の満潮域から砂を採集、水道水を入れたバケツの中にふるいを掛けながら砂を入れる。浮かんでくるプラスチック片を網で回収。（Sさん・準備をありがとうございます）



- ・回収試行調査の成果品の写真と個数の内訳
（Sさんから提供） プラスチック類、
大・・・7個
中・・・13個
小・・・53個



- 感想
- ・自粛からの再開の最初の活動、4ヶ月ぶりの屋外活動となりました。全員マスクをして、1グループ10人前後とするため、集合後15分の時間差をつけてスタートするなど以前とは様変わりした活動でしたが、十分に楽しめました。
 - ・本年度のテーマである「環境への気づき」の一環となるマイクロプラスチックの説明と調査を行いました。現状への認識が整理でき、また調査についての課題も理解できた。
 - ・身の回りでプラスチック関連のニュースは多く、今日(7/20)もゴミ分別の見直しや飲料関係のメーカーのペットボトルの新たな取り組みなどのニュースが目に入り、自分自身の環境問題への感度が上がっているような気がします。